

かがでしょうか。失敗を恐れないで英語で発言していきましょう。「うまく伝わってない」と不安に思う場面があったとしても、情熱を持って「これだけは言いたい」という気持ちがあれば、絶対に伝わるはずですし、相手も理解しようとしてくれます。こうしたコミュニケーションを続けることで、自分の自信を育み、次へ、次へと、経験値を増やしていけばいいのではないのでしょうか。

日向：大賛成です。医師の皆さんは、日本の英語教育を通じて、基本的な英会話力は身につけているはずですが。これに加えて、会話の段取りや、自然なやりとりを研究すると良いと思います。おすすめは、医療系の海外テレビドラマです。ネットから海外テレビドラマの台本をダウンロードすることもできます。問題意識と観察力があれば、英会話上達の解決方法は見つかるはずですが。少しの工夫で、英会話がグンと上達される方が、大勢いらっしゃると思います。

小井：指導的立場にある人は、指導対象の方々がうまくできたらどんどん褒めていきましょう。褒められると一層頑張ろうと思うものです。自分なんかはそうでした。

また、「相手に自分の気持ちを伝えたい」というレベルを突破したら、次は相手が知りたいことを探して、その表現形を出していく段階に行くと思います。「伝わらなかったらどうしよう」という不安な気持ちから、

「相手が知りたいことは何か」と考えるステージに来るのです。これこそが、相手を思いやることです。英会話はコミュニケーションのためのツールですが、このツールを学ぶことで、相手に近づいていくことにつながるはずですが。空手のやりとりでもそうですが、英語でも、「自分をどれだけ、相手にさらしていけるか」という心の部分も大事です。さらして、たとえショックを受けてもひるまない心が必要です。まだまだ、勉強の足りない私には、この企画も自分自身に鞭打つ良い機会になったと思います。

関：先生方、今日は貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

本日の座談会から、英会話が必要と思った時点で勉強を始めるのではなく、日頃から「この状況を、わかりやすい英語でどう表現するか」と考えるなど、空手の日々の基本稽古と同様、学習の継続が重要であることを痛感いたしました。また、英会話はコミュニケーションツールにすぎないと言いつつも、英語と日本語の言語観の違いに基づいて「会話の段取り」や「相手への思いやり」まで配慮する必要があることもよく理解できました。LCCEの読者の皆さんには、自らの研究や医療技術を世界に発信するためにも、失敗を恐れず「自分をさらけだして」どんどん外国人相手に発言することを今日から始めていただければと思います。

プロフィール



小井 泰三

大学で経済を専攻したのち日商岩井(現、双日)で商社マンとして鉄鋼関連ビジネスを経験。新極真会の空手を世界に広めるために、指導、会議など、日夜橋渡しとして毎月海外出張を重ねる日々である。



日向 清人

元ケンブリッジ英検面接委員。元NHKラジオ「ビジネス英会話」講師。大学で実践英語を教える傍ら『ディクテーションで覚えるビジネス英語必須パターン123』(秀和システム)、『クイズでマスターするGSL単語2000』(テイエス企画、3月刊)等実用英語本を多数執筆。